

【計画期間】平成27年度～平成31年度の5年間

将来像

しあわせ 創生 あらお

世界基準の自然と文化が、人のつながりや誇りを紡ぐ、希望と志にあふれるまち

※本市の最上位計画として、限られた経営資源を戦略的に活かすことで、人口減少の克服を目指す。

実現

実現

重点戦略

『子どもと楽しむまち』

『ひと』の創生

子どもと住みたくなるまち

本市で子どもと一緒に暮らすことの魅力や憧れを高めることで若い世代の居住者増加を図る。

(主な施策)

- ・Uターン希望者など移住希望者への情報発信や空き家バンクなどの整備
- ・子育て世代の経済的負担を軽減するための多子世帯支援充実や子ども医療費の助成
- ・自ら学び自ら考える学校教育の充実

子どもと訪れたいくなるまち

本市でしか味わえない、子どもが喜び、親として子どもに伝えたい体験やおもてなしを充実することにより、親子連れの交流人口増加を図る。

(主な施策)

- ・グリーンランド、万田坑、荒尾干潟などを活かした教育旅行等の誘客促進や観光消費額拡大
- ・宮崎兄弟と孫文の関わりを活かした中国等東アジアとの往来の活発化

好循環

好循環

『しごと』の創生

若い世代が安心して働くことが出来る雇用の創出を図る。

(主な施策)

- ・地域密着型企業の新規立ち上げの支援や創業に当たっての資金調達支援
- ・農林水産物のブランド化や6次産業化による成長産業への転換
- ・若年層の人材育成や就職支援、求職者と企業のマッチング支援

好循環の支え

『まち』の創生

「しごと」と「ひと」の好循環の舞台となる、まちの基盤整備や活性化を図る。

(主な施策)

- ・公共交通の活性化や荒尾駅バリアフリー化、有明海沿岸道路の早期整備促進
- ・荒尾競馬場跡地の効果的な活用を通じた荒尾駅周辺の活性化
- ・荒尾市民病院の新病院建設による医療の質の向上

政策方針と数値目標(H31年度)

1. 安定した雇用を創出する

一人当たり市町村民所得:2,441千円 就業率:53.6%

- ・新たなビジネスや雇用の場を創出し、若い世代が安心して働くことができる職場を生み出す。
- ・サービス産業を柱として、高い潜在力を持つ農林水産業や観光産業を成長産業へと発展させる。

2. 新しいひとの流れをつくる

市外からの転入者数 1,774人 市外への転出者数 1,809人

- ・転入拡大を図るため、移住の受け皿や相談窓口に関する総合的な環境を整備する。
- ・就業に伴う市外転出を抑制するため、地場企業と若い世代のマッチング支援を図る。

3. 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

合計特殊出生率 1.80 年間出生数 415人

- ・結婚を望んでいる若い世代の出会いの機会を設ける。
- ・妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援や、男性の子育てへの参加推進等を図る。

4. 時代に合ったまちをつくり、安全な暮らしを守るとともに、地域と地域の連携を推進する

荒尾市が暮らしやすいと感じる市民の割合 70.0%

- ・全体の調和がとれた効率的で暮らしやすいまちづくりを推進する。
- ・空き家・公共施設等の適正管理、地域の自主防災能力向上を図る。

5. 豊かな心、優れた教養、健やかな体を育む

学校に行くのは楽しいと思う児童生徒の割合 小学生90.0% 中学生85.0%
教養・スポーツの場に関する満足度 32%

- ・心身ともに健やかで人間性豊かな、地域や海外で活躍できるような学校教育を推進する。
- ・「学校・家庭・地域」の連携や、社会教育施設の充実、文化財保護、生涯学習の支援に努める。

6. 健やかで安心できる暮らしをつくる

生活支援サービスの実施率 65.0% 保健や医療体制に対する満足度 増加

- ・市民の命と安心な暮らしを守る機能を強化するため、地域医療機能を充実する。
- ・住み慣れた地域で暮らすための生活支援サービスの包括的な提供体制を構築する。

重点化

計画の推進

1. 市民と行政の協働
2. 効率的・効果的な行政経営
3. 広域行政の推進
4. 計画の効果検証と継続的な改善(PDCAサイクル)